

委員派遣実績報告書

平成30年11月9日

米子市議会議長様

総務文教委員会

委員長 岡田 啓 介



委員派遣を行い、所管に属する事務に関する先進地事例について調査を行いましたので、下記のとおり報告します。

記

委員会名	総務文教委員会
期 日	平成30年10月22日から平成30年10月24日まで
視 察 先 及び視察 内 容	10月22日（月） 滋賀県守山市 調査項目：「守山まるごと活性化プラン」について 10月23日（火） 愛知県長久手市 調査項目：大学連携推進について 10月24日（水） 大阪府池田市 調査項目：不登校対策について
参加者名	【委員長】岡田啓介 【副委員長】矢田貝香織 【委員】安達卓是、稲田 清、岡村英治、国頭 靖、田村謙介、 三嶋秀文、安田 篤 【随行】議会事務局 主任 佐藤祐佳
経 費	538,700円
委 員 会 所 感	別紙のとおり

滋賀県守山市（10月22日）

（1）視察の目的

滋賀県守山市では、少子高齢化、人口減少が進む地域が市内に見受けられる中、中心市街地だけではなく市全体の活性化が必要と考え、各地域の住民が主体となった取組み「守山まるごと活性化」を進めておられる。その先進的な取組みについて調査を行い、本市における地域の活性化・まちづくりの参考とする。

（2）視察（説明）要旨

「守山まるごと活性化プラン」は「住みやすさ日本一」が実感できる守山市の実現を目指し、地域の人たちが主体となり市内7学区で29プロジェクトを行っている。プランの策定から具体的な取組みについて、担当者から話を伺った。

●活性化に向けて（目的）

- ・地域の“たからもの”（地域資源）の活用
- ・地域の“絆”を強化
- ・「愛着と誇り」の醸成

●市内7学区（守山学区、吉身学区、小津学区、玉津学区、河西学区、速野学区、中洲学区）の活性化プランの策定について

- ・守山まるごと活性化プラン検討委員会について（学区別会議・全体会議との連携等）
- ・学区別会議の検討経過について

●各学区でのプラン推進に向けた取組みについて

①推進する上で大切なこと

- ・取組みの体制づくり

自治会等の既存の枠を見直し、新規組織の立ち上げ等の柔軟な対応、情報共有、参加しやすい体制

- ・優先すべき取組みの検討と順次実施

「まずは始めること」の手順、役割分担の検討、優先順位を決めて取組みを進めていくこと

- ・進捗状況の確認と見直し

関係者による計画の進捗の確認と次に向けた検討、地域住民への周知と意見聴取

②守山市（行政）の支援

- ・地域との協働・支援

地域での会議の進行補助、学区間や県等関係機関との調整、経済的支援、担い手づくり講座の実施、大学等との協力体制の推進など

- ・市による事業化等

施設整備、必要な許認可の取得と制度の制定、全市的なプロジェクト・取組みの実施など

- ・進捗管理の実施

学区の取組状況や課題等の情報共有、市による事業化の状況を共有する場の設定など

(3) 主な質疑応答

●事業実施において工夫された点は？

行政主体の計画策定ではなく、住民自らが地域の文化・歴史・自然等の地域資源を活かした活性化のためのプランとなるよう学区ごとに検討委員会を立ち上げたこと。その際、「新たな“箱もの”は建設しない」ことを前提とした。

●学区ごとの会議の開催状況とテーマ選定の特徴、検証と継続に向けた課題について

- ・会議の開催状況…毎月開催される学区・プロジェクトもあれば、2～3カ月に1回の学区・プロジェクトもある。また、リーダー会議等の全体会議を開催している学区もある。
- ・テーマ選定の特徴…守山市を代表する「ホテル」に関する活動が7学区中5学区で取り組まれている。また、歴史・文化に関する取り組みも多いが、学区の特徴が出た取り組みもある。
- ・検証と継続に向けた課題…市が学区活動の検証は行っていない。課題は、新たな担い手の発掘である。

●学区によって活動に対する意欲に差異が生じた場合の市の対応について

行政からの押し付けにならないよう、あくまで地域の自主的・主体的な取り組みであるとの考えにより介入はしていない。

●市からの経済的支援（予算）について

1つのプロジェクト当たり10万円を上限として学区単位で支援している。学区によってプロジェクト数が違うので23万円から63万円の幅がある。

●事業の成果・課題について

成果としては、地域住民が身近にある文化財・史跡等に改めて気づききっかけとなったこと、活動を通じて住民間につながりが生まれたことである。

課題としては、活動のベースとして河川や遊歩道等の整備を求められることがあるが、財政的に困難であること。また、現在は市の交付金を活動資金としているが、支援がなくなっても地域の活動として継続するか不確実であること。また、各地区の会館（市の施設）の職員がプロジェクトメンバーと事務局を担っているが、夜間の会議等のためかなりの負担がかかっていることである。

(4) 視察（説明）要旨に対する委員の考え及び本市の事務事業に参考となる点

守山市は自治会加入率が95%であり、地域の人たちが主体的に活動を行う素地がある。米子市は、現在自治会加入率は65%を超えるくらいであり、守山市で行われているこのプランを参考としながら、逆に自治会への加入率向上に効果を発揮できるのではないかと考える。このプランは、1. 地域資源の活用 2. 地域の絆を強化する 3. 「愛着と誇り」の醸成 の3つを目標に掲げている。守山市同様、本市もそれぞれの地域に特性がある。各地域がそれぞれ主体的に活動することにより、地域の特性を活かし、活性化につなげることができるよう、市としてどのようにかかわっていけばよいのか、さらなる調査・研究の必要性を感じた。また、守山市と違い、米子市は小学校区ごとに公民館がある。まずは、公民館での活動がさらに活発化するように、人員配置も含め検討し、できることから変えていくよう、当局に要望していきたいと考える。

(1) 視察の目的

長久手市が実施している～市内に開学している4つの大学と連携し、まちづくりに活かす取り組み～「大学連携推進について」学び、米子市における大学連携について考える。

(2) 視察(説明)趣旨

まず、長久手市の現状と今後の課題について説明を受けた。

また、長久手市第5次総合計画で、基本方針の中に「みんなの力を結集する自治と協働のまち」を掲げ、今後の課題対応として「市民主体のまちづくり」の取り組みを開始。その中の一つである「大学をまちづくりに生かす」とした「大学連携推進」について説明を受けた。

①長久手市の基本情報・現状 (★資料あり「長久手市の特徴と大学連携の取り組み」)

●面積 21.55 km²(米子市の1/6) ●人口 57,598人(米子市の1/3弱) ●平均年齢 全国一の若さ 38.6歳(米子市 46.6歳、全国平均 44.3歳) ●高齢化率(全国3位の若さ)

●2005年愛知万博が開催された際、東部丘陵線・愛称リニモが市の中央部を開通。名古屋市に隣接していることもあり、土地区画整理しつつまちづくりを進め、2012年(H24年)に愛知県38番目の市として発足。(旧長久手町)。都市と豊かな田園の両面を持つ市。

市内には4つの大学がある。近隣にも大学が多い。ベットタウンとして急激に人口増加している。

②長久手市の課題と挑戦 (★資料あり「長久手市の特徴と大学連携の取り組み」)

●人口増加率 全国6位 ●人口ピーク 2050年頃、人口64,000人、老年人口割合は現在の約2倍と予想。 ●1年間に数件の孤立死が発生。 ●地域のきずな力の低下。 ●市民主体の新しいまちへ。「行政主体」から「市民主体」のまちづくりへの挑戦中。そのきっかけ、まちづくりの一つが「大学連携」である。

③大学との連携Ⅰ(個別協定) (★資料あり「平成29年度大学連携事業 活動報告」)

●第5次総合計画(H21.3～10年間)において、大学をまちづくりに生かそうと、市内4大学との個別協定(包括大学協定)を結ぶ。 ●各大学の特色を生かした連携事業は、市の各担当課と連携。

④大学との連携Ⅱ(4大学合同) (★資料あり「長久手市の特徴と大学連携の取り組み」・「長久手市大学連携推進ビジョン4U」)

●個別の連携をさらに深めようと、4大学の地域連携担当部署との協議の場として「大学連携推進協議会」を設置。 ●H27年度から審議を開始し、長久手市大学連携基本計画「長久手市大学連携推進ビジョン4U」をH30年3月に策定。愛知淑徳大学・愛知医科大学・愛知県立芸術大学・愛知県立大学の4大学合同で、①社会貢献 ②教育活動支援 ③研究推進 ④拠点整備 の4つのビジョンに基づき地域連携を図ること

になった。●長久手市暮らし文化部「たつせがある課」が推進・とりまとめを担当。

(3) 主な質疑応答

●大学生 12,000 人のうち、年間 3,000 人が新たに入るというイメージがわからない。

卒業後、長久手市に残っている学生もいるのでは？

4つの大学の1学年合計 3,000 人が、卒業・入学で、入れ替わるという意味。

2回生からは、生活に慣れ、バイト・住居も市外となる利便性の良い地域で生活するケースが多い。学生は、市外から通学が多く、市内に企業が多いわけではないので、就職が近くに決まれば卒業後もそこに（市外）に住み続けることもある。名古屋市に向いて生活している現実はあるが、追跡しがたいところ。ようやく大型スーパーができたので、4年間通学して通り過ぎるのでなく、長久手市内に暮らしてほしい。

●大学の開設・誘致、まちの活性化について

2つの県立大は、県有地に設立。一つは昭和40年代からのもともとの医大。一つは区画整理・民間開発の中で開設。市としてまちづくり、財政活動として誘致したものではない。

●大学連携推進協議会について

ビジョン4Uでいう「大学連携推進協議会」は大学と市役所をつなぐ会で、大学側は地域連携担当部署の部長が参加。「連絡調整会議」は大学の事務方、課長級。大学推薦の教授・学生の「実働部隊」というながれ。

個別協定(包括大学協定)の段階では、行政主体で大学は受け身だった。各大学の特徴を生かすことに主眼が置かれていたり、研究等に対し行政から助成を得るという視点になりがちだったが、4つの大学合同の地域連携担当部署との大学連携推進協議会や、実働部隊の教授・学生のワーキングを行うようになり、市の目的を4大学で共有してもらうことができた。大学連携推進協議会が生きてきた。地域連携活動の発展につながった。

●内容決定のプロセスは？ 市からの提案？

大学(推薦された教授)によって受け止め方が違うのが現状。たつせがある課は取りまとめをする部署であり、各大学(推薦された教授)が、事業について担当課に提案する形は変わらないが、学生間の連携も生まれ、大学連携推進の背景や位置づけも共有できつつある。今後は、市側からのお願いもできるかもしれない。

●4大学連携の推進による学生の変化について、具体的な事例

4大学合同のワーキングで、大学相互の交流・違う分野の学生との交流などで、学生に良い刺激になっている。

すべての小学校区が一斉に行う防災訓練に、学生に参加してもらい、訓練の支えにもなってもらっているし、地域との交流となっている。

●事業の活動拠点について

大学持ち回り。大学も地域とつながりたい。まちまちである。

駅前にまちの顔(拠点)として「リニモテラス構想」があり、時にはそこが事業の会場になることも考えられる。

●リニモテラス構想と市民主体による運営とは

行政主体では行き詰る。市はお金は出すが、管理・運営を市民が自由にといいねらいを持っている。

●市民への広報について

- ・計画は、パブリックコメントで押し出した。
- ・事業は広報したが、大学と市の連携部分のPRはあまりできてない。
- ・リコモテラス運営協議会で、①子育て支援 ②観光交流 ③多文化共生 ④大学連携という4つのテーマに分かれ、枠にとらわれない活用方法を考えてもらっている。

●その他の回答

- ・行政が、市民ニーズ(例えば、ごみ収集・防犯灯)に対応することで、自治会のつながりをたちきってしまったところもある。まちづくり協議会として、自治会(任意)ではカバーできないネットワークづくりを開始したところ。
- ・市の拠点施設について、コミュニティセンターのように自由につかえる拠点が少ない。公共用地がなく進まない現状がある。教育機関の増設を急いでいるのが現状。
- ・長久手市内に公民館は一つ。公民館活動はなく行政主体の生涯学習教育はある。
- ・PTA役員のなり手は少ないが、小中学校のPTAとして学校エアコン設置の署名活動もあるなど活発。子ども会は激減。子ども祭りも減っている。地域方で子ども会役員を行うような新たな支えが必要との意見もある。
- ・可燃ごみは、(家の前)個別収集。資源ごみはステーション。高齢化もありマンションの収集場所までのゴミ出しも困難な場合など、500円で何でも助けてもらえる支えあいサービスもある。
- ・市民との対話・つながりづくりは挨拶からと、市長を先頭に、職員や市民が、オレンジ色のビブスを着用し、あいさつ運動を展開中。

(4) 視察(説明)要旨に対する委員の考え及び本市の事務事業に参考となる点

- ①ベットタウンとして急速に人口増加する中、現在の地域のつながりの希薄さと、どの地域にも必ずやってくる高齢化社会についての長久手市の認識・危機感を、米子市も学ぶべきである。
- ②各大学別に実施してきた行政との一対一の連携から、市内4大学合同での連携推進で、事業の目的の共有が図れた。今後、新たな視点で取り組む「市民主体のまちづくり」と共に、効果が期待できるのではないかと。10年間の第5次総合計画を粘り強く取り組んでおられることがよく分かった。
- ③各大学が、地域連携・地域貢献活動を積極的に行おうという大きな流れがある。鳥取大学医学部や米子工業高等専門学校にいらっしゃる、地域内での活動に向かっている先生・学生との連携役を米子市が積極的に果たすことで、高齢化対策・子育て支援・地域福祉の新たな力となると感じた。学生にとっても、米子への愛着・就労に対する意識変革、また、新しい人間関係構築で得られることもあると感じた。
- ④市の成り立ちや財政状況など、米子市と違いはあるが、長久手市の「市民主体のまちづくり」は、米子市の地域ごとの課題解決に向けた住民主体の体制づくりとして、参考になった。

大阪府池田市（10月24日）

（1）視察の目的

本市においても不登校対策は市政課題の一つとなっはいるが、不登校に至るまでの原因が個々において異なるため、その解消に当たっては、個別の事情に寄り添った支援が必要となる。

しかしながら、本市においては、そのための手法や組織等、本格的な支援に向けての体制整備が整っているとは言い難い。

そこで、全国初の公設民営のフリースクールと連携して本課題に取り組んでいる、先進地である大阪府池田市の取り組みの視察を行い、本市の教育行政の参考とすることとした。

（2）視察（説明）要旨

視察の前半において、池田市教育センターの大賀健司氏から「池田市教育委員会とスマイルファクトリー15年間の歩み」について、後半において、NPO法人トイボックス代表理事・スマイルファクトリー校長の白石智子氏から「全国初 公設民営のフリースクールスマイルファクトリーのあゆみ」について説明を受けた。

池田市では、平成9年度に不登校生の居場所と成長の場として池田市適応指導教室『BEANS（ビーンズ）』を開所し不登校対策に取り組んでいたが、平成13年頃から不登校率が全国平均を上回るようになり、不登校解消への新たな方策の検討を始めた。

その際、行政のみではもはや対応しきれないとの結論を出し、不登校や発達障がいがある子どもたちへの支援を行っているNPO法人トイボックスに、平成15年10月から、教育相談業務の一部を委託することとした。

そして、委託の方向性については、①学校復帰を前提とした指導・支援、②学校や市教委と連携できること、③学校という枠にとらわれないこととし、平成16年4月からは、市有施設をフリースクールの場合として提供し、指定管理を委託するなど、公設民営のフリースクールをスタートさせた。

その結果、池田市の不登校率は徐々に減少し、全国平均を下回るなど、効果を上げているとのことであった。

（3）主な質疑応答

委員からは、主に、学校・行政・家庭・就労支援・地域連携など、現状と課題についての質疑が行われた。

大賀氏からは、課題として、不登校生が増えた場合の施設規模について対応できない、委託先のスマイルファクトリーの経済的安定、提供している市有施設の老朽化等が課題として挙げられ、その点については、閉校した小学校施設の活用が検討されているとの回答があった。

また、白石氏からは、その閉校された小学校を拠点として、子育て・教育を中心としたまちづくりを行いたい旨の回答があった。

地域とのつながりの中で、切れ目のない関係性の中で、子どもからお年寄りまでをサポートすることが必要な今日、今後は、就労支援機能をもつコミュニティカフェ、教員研修機能、発達障がいがある子どもの保育・預かり等の機能を備えた、まちづくりの拠点施設としていきたいとのことであった。

(4) 視察（説明）要旨に対する委員の考え及び本市の事務事業に参考となる点

本視察を行うまで、「公設民営のフリースクール」という発想を持ち合わせていなかったため、新たな知見を得ることができた。

市政運営において、市民との協働がスタンダードかつ不可欠であることは認識していたが、不登校対策は、教育行政マターであるとの認識であったところ、民間力を導入した具体的な成功例に触れることができたことは、本市の不登校対策を進めていく上で、非常に参考となった。

今後、このような視点も持ち合わせながら、不登校解消に向けた本市の実情に合った施策の提案を行っていきたい。

総務文教委員会行政視察行程表

◎参加者10名〔委員9名・随員1名〕岡田委員長、矢田貝副委員長、安達委員、稲田委員、岡村委員、国頭委員、田村委員、三嶋委員、安田委員

随員：佐藤主任

月日	行 程	宿泊地等
10/22 (月)	8:19 8:25 10:35 10:53 11:54 13:15 13:39 米子駅 == (伯耆大山駅) == 岡山駅 ===== 京都駅 ===== 守山駅 JR 特急やくも8号・岡山行 JR 新幹線のぞみ16号 JR 琵琶湖線・米原行	ベッセルイン 滋賀守山駅前 ☎077-514-0011
	◎滋賀県守山市行政視察 (午後2時00分ごろから2時間程度) 【調査項目】「守山まるごと活性化プラン」について 【議会事務局】 電話：077-582-1151	
10/23 (火)	9:55 10:24 11:10 11:46 11:51 12:23 12:41 13:09 (※事故のため米原駅発の電車遅延) 守山駅 === 米原駅 === 大垣駅 ===== 名古屋駅 ===== 藤が丘駅 JR 琵琶湖線新快速・長浜行 JR 東海道本線・大垣行 JR 東海道本線新快速・豊橋行 名古屋市営東山線・藤が丘行	ユニゾイン新大阪 ☎06-6306-6830
	◎愛知県長久手市行政視察 (午後2時00分ごろから2時間程度) 【調査項目】大学連携推進について 【議会事務局】 電話：0561-56-0628	
	16:44 17:13 17:33 18:23 藤が丘駅 ===== 名古屋駅 ===== 新大阪駅 名古屋市営東山線・高畑行 JR 新幹線のぞみ117号	
10/24 (水)	9:00 9:04 9:20 9:38 新大阪駅 ===== 大阪駅 *** 梅田駅 ===== 池田駅 JR 京都線・西明石行 徒歩 阪急宝塚本線急行・宝塚行	◎大阪府池田市行政視察 (午前10時00分ごろから2時間程度) 【調査項目】不登校対策について 【議会事務局】 電話：072-754-6170
	12:15 12:35 12:47 12:50 13:42 14:27 15:04 17:17 17:21 池田駅 ===== 梅田駅 *** 大阪駅 ===== 新大阪駅 ===== 岡山駅 == (伯耆大山駅) == 米子駅 阪急宝塚本線急行・梅田行 徒歩 JR 京都線・高槻行 JR 新幹線のぞみ27号 JR 特急やくも17号	
	◎大阪府池田市行政視察 (午前10時00分ごろから2時間程度) 【調査項目】不登校対策について 【議会事務局】 電話：072-754-6170	

旅費計算表

平成30年10月22日 ～ 平成30年10月24日 (2泊3日)

滋賀県守山市・愛知県長久手市・大阪府池田市
総務文教委員会行政視察

月日	区間	鉄道路線名	区間 キロ数	目的地ま でのキロ 数	運賃	グリーン	急行料金		日当宿泊料		
							特別	新幹線	議員1,500円	甲 14,800円	乙 13,300円
10/22	米子～岡山	JR			10,290	阪神早得割			1,500		13,300
(月)	～(東淀川)	JR							1,100		9,800
	～京都	JR			3,350			2,460			
	～守山	JR									
10/23	守山～米原	JR							1,500		13,300
(火)	～大垣	JR							1,100		9,800
	～名古屋	JR									
	～藤が丘	市営			300						
10/24	藤が丘～名古屋	市営			300				1,500		
(水)	～新大阪	JR			3,350			3,000	1,100		
	～大阪	JR									
	～梅田	徒歩									
	～池田	阪急			270						
	池田～梅田	阪急			270						
	～大阪	徒歩									
	～新大阪	JR									
	～岡山	JR									
	～米子	JR									
	～										
計	議員旅費			54,690	18,130		0	5,460	4,500		26,600
	随行旅費			46,490	18,130		0	5,460	3,300		19,600

出席議員：岡田委員長、矢田貝副委員長、安達委員、稲田委員、岡村委員、国頭委員、田村委員、三嶋委員、安田委員

随行者：佐藤議会事務局主任

議員	54,690 × 9名 =	492,210
随行	46,490 × 1名 =	46,490
合計		538,700